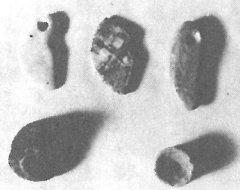


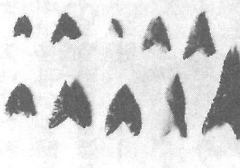


三万年前の石器発見

全盛期は縄文中期



装飾品の数々



狩猟に使われたやじり

東長山野遺跡に初めて人々が姿を現わしたのは、一万五千年前から二万年前ぐらいの先土器時代と言われる、まだ土器を持たず、石器を使っていた時です。その石器が数点発見されていますが、ここに狩っていた跡がないので、狩

の途中で立ち寄ったか、キャンプをしたのかもしれませんが、次に来た人々は、五千年ぐらい前の縄文時代中期前半に入ってからで、初めに数家族がまとまって移住してきたと思われます。

この遺跡で最も古い住居跡は、今のところ一軒しか出ていませんが、土器が多く出ているので、かなり多くの人々がいたと思われます。

この時期の土器は「阿玉台式土器」と呼ばれ、千葉県東部を中心として、広く関東地方に分布しています。住居跡は地面を掘り下げた床と、上にかやを葺いた堅穴住居で、床の中央に炉が設けられていて、常に火がたかれ、そこで食べ物を煮たり焼いたり、また、まわりを囲んで暖をとったりしたと思われる。

この遺跡で最も古い住居跡は、今のところ一軒しか出ていませんが、土器が多く出ているので、かなり多くの人々がいたと思われます。

この時期の土器は「阿玉台式土器」と呼ばれ、千葉県東部を中心として、広く関東地方に分布しています。住居跡は地面を掘り下げた床と、上にかやを葺いた堅穴住居で、床の中央に炉が設けられていて、常に火がたかれ、そこで食べ物を煮たり焼いたり、また、まわりを囲んで暖をとったりしたと思われる。